

# 平成 29 年度 三重県建設雇用改善推進大会を開催

平成 29 年度 (一社)三重県建設業協会 実施事業

----- 開催日時：平成 29 年 11 月 28 日(火) 13 時 30 分から -----

開催場所：三重県総合文化センター内

三重県総合文化会館 レセプションルーム

参加者：64 名

共催：厚生労働省 三重労働局

(一社)三重県建設業協会

後援：三重県

## 事業内容：

建設産業は、我が国の経済・雇用を支える基幹産業として重要な役割を果たしていますが、そこで働く労働者の雇用形態をみると、不安定な雇用形態の存在、長時間労働、労働福祉の立ち遅れ、労働災害の多発など依然として解決する課題が多く存在しています。

また今日、建設産業は厳しい経営環境に直面していますが、今後も建設産業の発展の道筋をつけていくことは、我が国経済の発展や雇用の安定にとって極めて重要であります。

このような観点から、本年度も厚生労働省三重労働局と共催で、さらに三重県の後援により、建設労働者の雇用の改善について、建設事業主をはじめ関係者の関心と理解を深め、建設労働者の雇用の改善の一層の推進を図ることを目的に「平成 29 年度 三重県建設雇用改善推進大会」を開催しました。

当日は、当協会山下会長に代わり出馬副会長が開会のあいさつのあと、国土交通省中部地方整備局からは建政部 松居建設産業調整官、厚生労働省三重労働局からは職業安定部 東職業対策課長、三重県からは雇用経済部 藤川雇用対策課長にご臨席をいただき、大会開催の祝辞をいただき、参加者一同建設労働者の一層の雇用改善を図ることを誓いました。

大会行事では、建設雇用改善優良事業所表彰として、イケダアクト株式会社様が三重県知事表彰を受けられました。

次に、「私たちの主張」(一社)三重県建設業協会会長表彰が行われ、林 佑磨さん(朝日土木 株式会社)の作品が表彰されました。おめでとうございます。

この「私たちの主張」は、建設業を担う若年者の方々の意識高揚を図ることを目的に毎年の募集を行っており、今年度は建設業がもたらす「夢」や「憧れ」、建設業の仕事を選んだ動機、これから就職しようとする若者へのメッセージなどをテーマに募集いたしました。今年度も多くの応募があり、その応募作品の中から林 佑磨さんの作品が会長表彰に選ばれました。

表彰後、林 佑磨さんに応募作品を朗読していただきました。

大会終了後特別講演に移り、仕事効率改善コンサルタント 今蔵(いまくら) ゆかり様を講師に迎え『「現場の意識と行動が変わる！」 安全な職場環境のための「整理力」と「伝える力」を磨くコツ』と題し講演をしていただきました。安全な職場環境を築く参考になったのではないのでしょうか。



## 「私たちの主張」

【平成 29 年度 一般社団法人三重県建設業協会 会長表彰 受賞作品】

## 「目に映ったモノ」

林 佑 磨 （朝日土木 株式会社）

入社して数ヶ月、初めての現場は私にとって貴重な経験を得られたと思う。炎天下の中での作業、雨天時の現場管理、足元を注視しても油断できない現場等々まだまだある。今まで学生時代、体を壊すまで運動をしていた時の豪さとは比べられないものだったが、此处でしか得られない経験ができ、非常に良かったと今も思う。

私がこの業界に興味を持ったきっかけは、近所に建設業があることや、家の近くにある砂防ダムの見学をしたこともそうだが、一番の理由は父親の工具を使って暇な時に、テーマ不明の謎の工作をしていたことが始まりだった。早くからモノづくりの完成した時の喜びを知り、初めての友達は「槌」と言えるほど。しかし、数日経つと親にゴミ扱いされ捨てられていたことを聞き、虚無感に襲われていたことを覚えている。そんな私は気が付くと、普通科の高校に進学していた。当時はバドミントンの魅力に惹かれ、部活に没頭し幼い頃の思い出は離れていた。そんな高校時代、東北地方を東日本大震災が襲った。此处四日市まで揺れが来たことを覚えている。幾つもの社会基盤が停止している中、被災者であるにも拘らず、地元の建設企業や協力会社が応急復旧と行方不明者の捜索にすぐに立ち上がったことを知った。東北の地理に詳しく、緊急時に備えた体制の準備があったため、迅速な活動を行うことが出来たのだ。その姿に、私は感銘を受けた。と同時に、当時の復旧に自分も携わることができなかったことを心に思い残した。このことをきっかけに、モノづくりの喜びを思い出すと同時に、自分が力になれなかった当時の心境を、胸に秘め、土木の道に進もうと決心した。

土木について全く知識が無かった私は、土木科の大学で学んでいく内に、施工管理の仕事について行き着いた。私は今まで、自分の力でモノを作る作業しかイメージが無く、施工管理のように人の前に立ち指示し、責任の下で現場を引っ張っていく姿を考えたことがなかった。どの現場でも必ず施工管理をする人が存在する。大学のインターンシップで施工管理する上司の姿を初めて目に映った時、私の中でかっこよく印象に残った。いつか私もこの人のように、現場を指揮し、また、人に見られてないところでも動いて現場を管理する。そうした上で、構造物を造りたいと思った。

土木は、快適な環境の中で行う工作とは全く違う。様々な天候の中での作業、時には作業を中止することもある。従事することへの責任、定められた工程等から、常に先の事を考え続けなければならない、押し潰されそうになる。しかし、モノづくりはそんなのばかりなんてことは無い。たくさんの協力の下、工事が完了した時には、必ず達成感が込み上げてくる。その感情は個人差があるだろうが、自分が関わったモノが完成した時に何も感じない人は居ないだろう。

完成したモノは長く残り続け、人々の目に映る。また、造っている姿は必ず誰かが見ている。この業界に入って魅力と感じたことだ。何も魅力が感じられないといざ、働いてもやりがいを生み出せないと思ってしまう。

これから、同じ土木の道を歩もうと考えている方は、私と同じような魅力を感じることや、新たな魅力の早期発見をして欲しい。現在の私はそうした発見により目標が立っている。土木は発見することが多いのでどんな小さなことでもいい、是非見つけてほしい。あなたの目には何が映るだろうか。